

ふるさと奥尻通信

令和4年7月7日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

鮑の貝塚 古は人や住みけん北海の かかる小島に貝塚のあり 深瀬春一詠

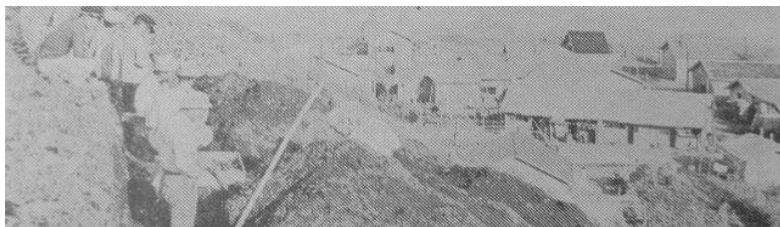
特集 奥尻島の発掘調査史①

今年度、町教委の目玉事業として、青苗遺跡から発掘された勾玉等の重要資料を再調査して報告書を刊行するプロジェクトがスタートしました。まずは青苗遺跡の調査の歴史を、年代順に古い方から簡単にご紹介します。

島内でとても重要な遺跡の一つとして数えられる青苗遺跡ですが、考古学的な視点で公表されたのは、函館師範学校教員の深瀬春一が「奥尻島紀行」と題して昭和6年(1931)の『旅と伝説』(12月1日号)に遺跡の概要を発表したのが最初のようにです(詳細は本誌第104号参照)。

本格的な発掘調査は、戦後の昭和24年(1949)、江差高等学校教諭の宮下正司(後に江差町名誉町民)率いる郷土研究部が行ったものが最初で、青苗高台の墓地付近から縄文時代中期(約4000年前)の鉢形土器2点と、貝塚地点から擦文時代後期(約1000年前)の擦文土器の坏(つき:お椀型の土器)が見つかりました。

翌昭和25年には、札幌西高等学校教諭の奥野清介率いる郷土研究部が調査に参加しています。



昭和31年 早稲田大学などによる青苗貝塚の発掘

このときの調査成果は現在、北海道博物館に収蔵されています(目録第33集)。絶滅したとされるニホンアシカの頭骨がまとまって発見されており、詳細に見れば、当時の食生活やアシカの生態について言及することができそうです。

昭和27年には東京大学助教授の鈴木尚ら、同29年には市立函館博物館の石川政治ら、同31年には早稲田大学講師の桜井清彦らによる調査が連続して行われ、当時の考古学会で大変注目されていたことが判ります。このように、昭和30年代までの奥尻では主に青苗遺跡における擦文時代の様相について、貝塚出土品を中心に研究事例の積み重ねがなされてきました。

その後、日本の経済成長とともに、考古学の世界も大学等の学術発掘での研究活動から、大規模な行政発掘の時代に変わっていきました。道路や空港の整備、宅地分譲といった土地の大改編を伴う建設工事の前段階として、遺跡の発掘調査がなされ、記録保存の上で、現地は開発(遺跡は破壊される)されることとなったのです。

昭和51年(1976)、奥尻空港への道路整備として、青苗遺跡を縦断していた道路の拡幅工事が計画され、三カ年にわたって大規模に調査されました。これが奥尻での最初の行政発掘で、外部から専門家の先生方を多数招聘して行いました。古くは縄文時代前期～中期と、擦文時代後期の遺物が見つかりました。そして、昭和52年の調査分において、後に有名になる丁字頭勾玉が発見されたのです。本州の古墳時代的な要素を色濃く反映する文物の発見により、離島故に考古学的な情報が少なかった奥尻が再度、脚光を浴びることとなったのです。 つづく。

青苗遺跡発掘調査の歴史

昭和6年8月22日	函師、深瀬春一
昭和24年8月2日～6日	江差高、宮下ら
昭和25年7月中旬	札幌西高、奥野ら
昭和27年8月	東大、鈴木ら
昭和29年8月8～14日	函市博、石川ら
昭和31年8月20～28日	早大、桜井ら



昭和24年 江差高校による発掘
学術調査と行政調査の違い

学術調査とは、大学や研究機関が歴史の解明を目指して、学術的な研究活動として遺跡を発掘調査するものです。

行政調査とは、県や市町村の教委や調査組織が、開発行為によって破壊される予定の遺跡を記録保存する発掘調査です。



青苗遺跡を横断する空港からの道路



円筒上層式土器 縄文時代中期



昭和58年(1983)5月26日、秋田県沖を震源とするM7.7の地震が起き、奥尻島へも津波が押し寄せました。奥尻のシンボルである鍋釣岩も揺れと岩石の風化による経年劣化によって修復が必要となり、その対策を講じることとしました。偶然にも、前年度中に岩の現状把握のための調査が行われており、翌59年8月より工事に着手することができました。弧状となっている頭頂部にはセメント状の建材を流し込み、固めている様子がみとれます。その10年後の北海道南西沖地震で、さらに大きな揺れに見舞われた鍋釣岩は、平成9年に再度の修復を行い現在に至っています。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

語りつぐ北海道空襲 菊地慶一

戦争末期の昭和20年7月14日、15日の両日に北海道地方は米軍艦載機の空襲を受け、被害は広く全道一円に及んだ。B29による絨毯爆撃に比べれば、規模は小さかったが、民間人を巻き込んだ無差別攻撃だった。推定死者数1,958名。市町村史にわずかに記載されるような事実を、現地を歩いて証言を集めて回った労作。旧版を補足した決定版。



奥尻の釣り 前半号



春の釣りシーズンも無事に終了しました。昨年に引き続きホツケの回遊は濃く、港内外で釣り人を楽しませてくれました。ただ、比較的小ぶりも多く、50センチ前後の根ボツケは数少なかった印象です。一方で、奥尻港内のカレイ釣りは盛況で、5月中は朝夕と連日のように人が出ていました。なんでも、今季はカレイ捕りの網を入れる船が居なかったことで、港内にマガレイが多く入っていたことに要因があるようです。磯の方は、脂ののったマゾイやハチガラが多かったものの、ソイ全般は魚影が薄い傾向でした。秋からの後半戦に期待です。赤石港、青苗港などにヤリイカの回遊があり、夜中まで騒がしい日も見られました。全国的に釣りレジャーが盛んです。ブームが起こると、マナーが低下しがちですので、気をつけたいものです。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第4回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「鳥の子」第三号

れいい時でる水のなげたをかい除洗のやのま
がだがよ、紙仕でさき。しらかをい日茶日な何
未後、り何が事、いだ一ぼ、らしはの碗にいだ
だがアも回はをア。か綱っ縁、て姉朝ははよか
に、ンずもげすン、ら帯て側ともさの洗少う、
と仲マっ取、れマと、を貫を云、ん掃うしな母
れマコとりべばコ母アしっ拭う傷に除ぞ位気さ
ないと、替た、ーさんでてく母にしはしいがん
いれを仕えく上をんまい、時さ水てしと痛しや
のな貼事た粘に貼にコレやはんが貫た思くた姉
でいるは。っ貼っ言ーばっ妹の入っがってでさ
あのとし綱ばったわを、とに心れた、たも、ん
るだ、や帯るてがれ貼お拭雑遣ば。茶。掃へに
。そはすののあ、たりおい巾い悪掃碗次除次濟

しらかのど入る調の玉が
よ、奥うるたプ査玉、ら昭和
うーそ尻しほ。ロし類水発和
と歩の島てど日ジ総と晶掘五
うみマ渡ど優でク的刀、れ十二
も込ンつのもトなにガた二年
のんをてよた五が報つラ丁に青
でだ感きう勾本始告いス字苗
。究なの、が指りを、な勾遺
をがこ、にま作再ど跡

勾玉再調査プロジェクト



早速大工仕事をしました。

の趣ろ懸いやた職で嶋育月
昼味し命こ仕。をす将係かは
寝はくがと事ま機。寛にらじ
でバおんがのだに出(新教め
すト願ば多こま北身ちし委ま
。ミいりいとだ海はしく委ま
ンいまでな北道大ま入員て、
トたすすど海に分まり会、
ンしのがわ道来県さまの今
とまで、かのまでひし社年
休す、ーらこし、ろた会の
日。よ生なと 就一十教四

新人くん紹介します

くにいのニり再がむとり入
なりな見ユま調今頃腰まで気
りり、出しす。査年です。が
ま一しス。プ度し据。つ
したは刺ツ聞ジ業うてろ中ば
。全激ブ報エ化か。物そ高十二
後国的道クし。事。ろ。年二年
に的載がトたそに勾の取ど数
引につりヤで勾の取ど数
け話た、フも玉一りしにに
な題せそ、あ。のつ組りな突

新水之記録(編集後記)

かな活がサのがた大探奥シと
。つ動ち下参あ。の会検尻しと
たはな三加りではし鉦グて奥
の、日年が、六て山大五チヤ
で良常目あ鉦二年き跡会月ヤ
はいにでつ山〇ぶまとをにレ
な気あ不て探組りし地開親
い分つ活、検ほのた。熱催、の
で転て発こにど復。発。の
し換、にこもの活釣電六フク
よに野なコ大参でり所月イ
う 外り口勢加しのをにツル

奥尻を学びの場に



大相撲奥尻場所 記念のエア座布団